

オオバナミズキンバイ・ナガエツルノゲイトウ冬季確認調査報告

- ・日 時/2018年2月17日(土) 9:00~11:00
- ・場 所/手賀沼上沼(手賀大橋の西側)
- ・参加者/中井克樹氏、林紀男氏、西廣美穂氏、千葉県水質保全課：行方真優氏、千葉県生物多様性センター：岸野真氏、我孫子市：迫田暢介氏、辻和尊氏、柏市：森山博文氏
美手連(八鍬雅子、梶眞壽、小倉久子)、「ボートセンター小池」船頭さん
- ・報 告/小倉久子(亀成川を愛する会)

※この見学は手賀沼流域フォーラム調査事業の一環です。

前回調査の11月15日には、まだナガエツルノゲイトウ(ナガエ)もオオバナミズキンバイ(オオバナ)も枯れる前で、それぞれの群落の区別がつけにくかった場所もあったため、他の植物も枯れている冬季に、ナガエ群落の中に混在しているオオバナを確認する目的で調査を行いました。

他の多くの植物と同様に、ナガエもオオバナもすっかり枯れていましたが、両者の枯れた状態の色が全く異なっていました。すなわち、枯れたナガエは薄茶色(ベージュ色)なのに対し、オオバナは赤茶色になっており、いろいろな植物の中でオオバナを簡単に識別することができました。

若松の植生帯は、①のようにほとんどすべての植物は枯れていました。11月には②のように、ナガエもオオバナもまだ緑色を保っていて、緑色の色調のわずかな違いから、盛り上がっている部分をオオバナと判定しましたが、今回は①のようにオオバナの赤茶色がはっきり見えていて、11月に判定した群落の大きさより、実際にはもっと広範囲に広がっていたことがわかりました。

① 若松植生帯(2018年2月17日)



② 同じ場所(2017年11月15日)





③ 枯れたオオバナ群落をよく見ると、黄色い○のようにすでに新芽が出ていました。

フレコンパックの前面はオオバナの大きな群落で、写真④右手部分の薄茶色と水中に見える茎はナガエです。

⑤ 濡れていると写真では違いが分かりにくいのですが、黄色い○の中の盛り上がっているのがオオバナです。遠くからでは識別しにくかったオオバナの小さな群落も、よく見えました。



途中、ヨシ帯の近くを船が通った時、何事起きたのか、とタヌキがこちらを見ていました（⑥）。



⑦ このように、遠くからでもオオバナと分かります。



⑧ オオバナは、ヨシ群落の縁まで広がっていました。今年度は先にヨシが生えていたので(?)、ここまでしか進めませんでした。春になったら、もしヨシより先にオオバナの芽が伸びたら、オオバナが繁茂してヨシに覆いかぶさり、ヨシ群落が負けるでしょう。赤茶色と薄茶色がブチになって見えますが、近くで見ると、ナガエの「土台」の上にオオバナが覆いかぶさって、広がっていることが分かります。



⑨ 11月16日に大きなナガエ・オオバナ群落を駆除した我孫子新田地先では、早くもナガエの新芽が顔を出し始めていました。



⑩ 11月の駆除の時にはなかったナガエの島を発見!! かなりの大きさです。

水際線に沿ってオオバナの赤茶色が良く目立ちます。11月には遠くからでは区別が付きませんでした。

⑪



⑫



大きなオオバナ群落に上陸して、調査しました。これがオオバナの「巨木」です。中井さん曰く、「それでも、まだ2年物くらいかな」

⑬



⑭



オオバナの水中の茎は節のようになっていて、そこから水中根が出ています(⑮)。根だけを見ると、オニビシに似ています。ナガエの水中の茎は、もっとまっすぐ。

⑯ ナガエの茎の間から、あっちにも、こっちにもオオバナの新芽が顔を出しています。

⑮



⑯



大堀川河口でも、新しいナガエ島を発見しました！ どこから流れてきたのか？ とても大きい。

⑰



北千葉導水第二機場のところまで来たところ、「あれれ、ナガエ・オオバナ大陸がない！！！」
ビジターセンターや導水の放流口の近くまで、どんどん船を近づけることができてしまいました
(⑬)。

⑬ 北千葉導水第二機場前（2018年2月17日）



同じ場所（2017年9月6日）



ということで、ここにあった「ナガエ・オオバナ大陸」がちぎれて、対岸の我孫子市側（写真⑩）や大堀川河口（写真⑪）を漂っていたのかもしれない、と推測しました。

それにしても、あの「大陸」がちぎれて漂流するなんて、考えられないことでした。

⑭ ここは、今まではナガエの天下だった場所ですが、今年の夏にはオオバナに取られるか、ナガエが守り通せるか。（なんだか、ナガエに味方したくなってきました）

⑭



⑮ でも、ナガエもオオバナに負けじと、水の中で春に向かってしっかりスタンバイしています。